

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 3	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Stimulus preexposure reduces generalization of conditioned taste aversions between alcohol and non-alcohol flavors in infant rats. 幼児ラットにおいてアルコールと非アルコールフレーバーの間で、刺激前暴露は条件付け味覚嫌悪の生成を減少させる	
執筆者 Chotro MG, Alonso G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Behav Neurosci. 2003 ;117(1):113-22.	
キーワード アルコール、条件付け味覚嫌悪学習	
要 旨 本研究は、過去の味経験がアルコールの味覚嫌悪にどの程度搬化するかを検討し、さらにアルコールと他の味溶液の前暴露が溶液間の搬化を減少させるかについて調べた。方法として、幼児ラット (生後 13-17 日) にアルコール味、スクロースとキニーネの混合またはアップルサイダービネガー、コーヒーのような非アルコール味で味覚嫌悪条件付けを行ない、その後、様々な味溶液に対する搬化の程度を検討した。その結果、以前から報告されているように、アルコールや他の味 (スクロースとキニーネの混合またはアップルサイダービネガー、コーヒー) の間で嫌悪条件付けの搬化が観察された。一方、アルコール以外の味に前暴露しておく、これらの間での味覚条件付けによる忌避の搬化が減少した。アルコールとスクロース、キニーネの間の搬化は両方の味に前暴露したときだけに減少するのではなく、アルコールとビネガーの組み合わせ以外の無条件付け味刺激に対しても減少した。しかし、この同様の効果を得るためにアルコールとビネガーの組み合わせは、両方で前暴露する必要がある。また、条件付けされた味に前暴露していても搬化の減少は観察されなかった。 以上の結果から、アルコールやその他の味刺激による過去経験はラットで幼児期の段階からそれらを弁別する能力を高めることが示唆された。	